

災害から身を守り、共に生きるための 主体的な態度の育成を目指して



緊急地震速報を活用した避難訓練（千塚小）



学級活動での防災学習（吹上小）



避難所体験活動（吹上中）



はじめに

平成23年3月に発生した東日本大震災以来、防災教育の重要性や必要性が叫ばれています。本市においても、平成27年秋の関東・東北豪雨災害では、河川の氾濫や土砂崩れ等が発生し、市内全域に及び大規模な災害となりました。比較的自然災害が少ないとされてきました本市においても、防災教育の充実喫緊の課題となっています。

災害発生時には、児童生徒が自ら危険を予測し回避するために、災害に関する知識に基づいて的確に判断し、迅速に行動する力や、自他の生命を尊重し、最善を尽くし、「主体的に行動する」態度を育成することが求められます。

本市では、平成28年度より防災教育推進事業として、市内の各学校において、実践研究を進めていただいています。特に、吹上ブロックにおいては、平成28年度より2年間、市の防災教育推進研究校に指定しました。地域とともに防災教育を推進するために、小中9年間の系統的な年間指導計画の作成や緊急地震速報を活用した実践的避難訓練、また、家庭や地域と連携した実践的体験活動の研究を行い、その成果の普及を図ることで、市内の防災教育の充実にご尽力いただいています。

本指導資料並びに児童生徒用学習資料につきましては、各学校において、児童生徒の発達段階に応じた系統的・計画的な防災教育をより一層充実させるための参考資料として広く活用していただくよう作成いたしました。小中の一貫性のある教育の中で、学校が地域と一体となり、地域とともに、児童生徒の防災対応能力を育成する一助となれば幸いです。

なお、本資料作成のために、学習プログラムや各種情報を提供くださいました宇都宮地方気象台に心より感謝いたします。

平成29年3月

栃木市教育委員会教育長 赤堀 明弘

目 次

1	本市防災教育の基本的な考え方と目指す子ども像	1
2	9年間で育む防災対応能力	1
	防災対応能力一覧表	2
3	防災教育基本プログラムの内容と活用	3
4	栃木市防災教育基本プログラム	4
	【学習指導展開例】	
	小学校共通 （地震災害）	5
	小学校低学年 （地震災害）	6・7
	（洪水災害・土砂災害）	8
	（竜巻災害）	9
	小学校中学年 （地震災害）	10・11
	（洪水災害・土砂災害）	12
	（竜巻災害）	13
	小学校高学年 （地震災害）	14・15
	（洪水災害・土砂災害）	16
	（竜巻災害）	17
	中学校 （地震災害）	18
	（避難所運営）	19・20

1 本市防災教育の基本的な考え方と目指す子ども像

防災教育では、様々な災害の危険から、自らの生命を守り、安全を確保するための行動が取れるようにすることが大きな目的になりますが、災害の被害を最小限にするための準備や行動、被災後の避難所生活での適切な行動等を身に付けることも重要と言われます。文部科学省の「『生きる力』を育む防災教育の展開」の中では、防災教育のねらいを次の3つに整理しています。

- ア 自然災害等の現状、原因及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。
- イ 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
- ウ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

すなわち、自然災害への理解を深め、適切な意志決定や行動選択に基づいて自ら安全を確保しようとする力（自助の力）、自他の生命を尊重し、学校・家庭・地域の活動に参加・協力し、進んで地域の安全に貢献しようとする力（共助の力）を育むことが求められています。

そこで、本市では、防災教育を通して、この「自助の力」、「共助の力」を身に付けた児童生徒を育成するため、次の2つを目指す子ども像として設定しました。

- ・ 災害への理解を深め、自分の命を自分で守り抜く子ども（自助）
- ・ 自他の生命を尊重し、進んで地域の安全に貢献しようとする子ども（共助）

「自助の力」としては、災害に対する理解を深め、的確な思考・判断に基づいて、自分の命を自分で守ろうとする態度を身に付けさせます。

また、「共助の力」としては、自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりへの協力、被災後の避難所生活や復興への協力等に進んで貢献しようとする態度を身に付けさせます。

2 9年間で育む防災対応能力

目指す子ども像の実現に向けて、児童生徒に育てたい能力・態度を、本市では「防災対応能力（防災リテラシー）」として、次の3つの観点から育成します。

- ① 自然災害等に関する基本的な「知識」
- ② 危険予測や主体的に行動する「技能」
- ③ 生命尊重や社会貢献に対する「態度」

災害の特色や災害発生メカニズム、危険性等の基本的な「知識」を獲得し、危険を回避し、安全に行動するための「技能」、自他の生命を尊重し、共に生きようとする「態度」を、小中9年間で、発達段階に応じて学習します。本市では、小学校低学年、中学年、高学年、中学校の4つのステージに分け、計画的かつ継続的に学習し、防災対応能力を身に付けます。

栃木市における防災教育

【防災教育における目指す子ども像】

- ・災害への理解を深め、自分の命を自分で守り抜く子ども（自助）
- ・自他の生命を尊重し、進んで地域の安全に貢献しようとする子ども（共助）



防災対応能力（防災リテラシー）

観 点	小学校（低学年）	小学校（中学年）	小学校（高学年）	中学校
①自然災害等に関する基本的な知識	<p>ア 局地的な大雨や雷、竜巻、地震等による災害について知る。</p> <p>イ 学校生活における災害発生時の安全な行動の仕方について知る。</p>	<p>ア 局地的な大雨や雷、竜巻、地震等による災害の危険性について理解する。</p> <p>イ 日常生活における災害への備えや災害発生時の安全な行動の仕方について理解する。</p>	<p>ア 自然災害の種類について理解する。</p> <p>イ 過去の災害から、時間や場所により被害に違いがあることを理解する。</p> <p>ウ 防災や災害対応を行う関係機関やその取組について理解する。</p>	<p>ア 自然災害の発生のメカニズムについて理解する。</p> <p>イ 指定避難所や避難場所の役割について理解する。</p>
②危険予測や主体的に行動する技能	<p>ア 気象の変化等による危険性について、気付くことができる。</p> <p>イ 危険を回避するために落ち着いて行動することができる。</p>	<p>ア 気象の変化等による危険性について考え、予測することができる。</p> <p>イ 危険を回避するために素早く安全に行動することができる。</p>	<p>ア 災害時における危険を予測し、率先して避難行動をとることができる。</p> <p>イ 危険箇所や避難方法について考え、ハザードマップ等を活用して行動することができる。</p>	<p>ア 様々な状況下での避難や護身の方法を考え、より安全な行動を選択することができる。</p> <p>イ 様々な人と協力して避難所運営の補助ができる。</p>
③生命尊重や社会貢献に対する態度	<p>ア 生命を大切にすることをもち、自分の命を自分で守ろうとする。</p> <p>イ 友だちと協力し、安全に役立とうとする。</p>	<p>ア 生命の尊さを感じ取り、自分の命を自分で守ろうとする。</p> <p>イ 友だちと協力し、進んでみんなの安全に役立とうとする。</p>	<p>ア 自他の生命のかけがえなさを理解し、自分たちの命を自分たちで守ろうとする。</p> <p>イ 自分の役割を自覚し、災害時に他者や集団、地域の安全に役立とうとする。</p>	<p>ア 自他の生命を尊重し、自分自身や他者の命を進んで守ろうとする。</p> <p>イ 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に活動に参加しようとする。</p>

3 防災教育基本プログラムの内容と活用

(1) 防災教育基本プログラムの内容

① 取り扱う自然災害の種類

自然災害とは、暴風、豪雨、地震、津波など、異常な自然現象により生ずる被害を言います。本市においては、2011年3月の東日本大震災、2014年8月の竜巻、2015年9月の関東・東北豪雨において大きな被害を受けたことから、特に「地震災害」「洪水災害・土砂災害」「竜巻災害」の3つを取り上げ、これらの学習を例に、正しい知識を身に付けること、適切に判断し身の安全を確保すること、互いに協力し合うこと等の自然災害への対応能力を身に付けさせます。

② プログラムの内容構成

本プログラムでは、「地震災害」「洪水災害・土砂災害」「竜巻災害」の3つについて、小学校低学年、中学年、高学年、そして、中学校の4つのステージに分けて、発達段階に応じて系統的に学習するよう構成してあります。

まず、「地震災害」における「緊急地震速報を聞いたときの正しい行動」については、どのステージにおいても学習することとしました。地震が起きたときの身の守り方の「姿勢を低く」「頭を守る」「じっとする」の3つは、地震ばかりでなく、どの災害時においても適用できるものです。緊急地震速報とセットで繰り返し学習し、主体的な能力・態度を確実に身に付けさせることが重要で、年度当初に学習しておくことが有効です。

また、発達段階に応じた学習については、小学校低学年で、主に学校内での安全な身の守り方、中学年では学校外での安全な身の守り方及び防災への備え、高学年では災害の危険の予測と未然に防ぐための身の守り方を学習します。そして、中学校では、これらの学習の理解を確認した上で、災害が起こったときの避難所での行動や避難所運営について学習します。中学校時にこの学習をしておくことで、将来、直接避難所運営に関わったり、主体的にボランティア活動に参加したりする場合に役立つと考えます。

(2) 防災教育基本プログラムの活用

防災教育は、学校の教育活動全体を通して、組織的・計画的に推進することが重要です。本プログラムは、防災教育として必要な防災対応能力を身に付けるための学習展開例を示してあります。実際には、学級活動や各教科、道徳、総合的な学習の時間等で学習することになりますので、各教科等のねらいや児童生徒の実態を踏まえた効果的な学習になるよう、各校で工夫し、年間指導計画に位置づけ、計画的に学習するようにします。

また、本プログラムの学習のために、小学校低学年用、中学年用、高学年用、そして中学校用の学習資料を用意しました。児童生徒が具体的に考えたり、話し合ったり、活動したりするための資料が掲載されていますので、有効に活用してください。

なお、自然災害や防災に関する学習は、各教科等においても行われます。「各教科等との関連」も掲載しましたので、本プログラムの学習と併せて学習すると効果的です。


4 栃木市防災教育基本プログラム

		小 学 校			中 学 校
		低 学 年	中 学 年	高 学 年	
地 震 災 害	避 難 所 運 営	<p>○緊急地震速報を聞いたときの正しい行動</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報を聞いたり、強い揺れを感じたりしたときに、どうすれば自分の身を守るかについて考え、主体的に行動することができる。(中学校においては、地震以外の自然災害を確認する) 			
		<p>○地震からの身の守り方(学校内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内で地震が起きたときの安全な行動の仕方について知る。(①-イ) 地震が起きたときに自分の命は自分で守ろうとする。(③-ア) 	<p>○地震からの身の守り方(学校外)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校外で地震が起きたときの安全な行動の仕方について理解する。(①-イ) 学校外を歩いて、地震が起きたことを想定した安全な行動をとることができる。(②-イ) 	<p>○地震の発生状況に応じた身の守り方</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の大地震の被害の特徴を理解する。(①-ア) 地震が発生した季節や時間帯・場所でのような避難行動をとったらいかを考え、予測することができる。(②-ア) 	<p>○災害が起こった時の避難所での行動</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所での様々な状況で自分たちにできることを考えることができる。(②-ア) 避難所で自分自身だけでなく、地域の方の生命を進んで守ろうとする。(③-ア)
洪 水 災 害・ 土 砂 災 害	所 運 営	<p>○大雨が降ったときの安全な行動の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨が降った時の危険性について知る。(①-ア) 大雨が降ったときの街の変化に気付くことができる。(②-ア) 	<p>○大雨による災害からの身の守り方</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨の多い季節や雨の降り方による危険について考え、予測することができる。(②-ア) 危険を感じ、自ら安全を考えて行動することの大切さに気付き、自分の命を守ろうとする。(③-ア) 	<p>○洪水、土砂災害等の危険の予測と身を守る避難の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃木市で起きた過去の水害について理解する。(①-イ) 栃木市防災ハザードマップをもとに、危険箇所はどこかについて考えることができる。(②-イ) 	<p>○避難所運営に必要なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所の役割や仕事について理解する。(①-ウ) 地域の防災や災害時の助け合いの重要性を理解し、主体的に行動しようとする。(③-イ)
		<p>○竜巻からの身の守り方(学校内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校での竜巻接近時の安全な行動の仕方について知る。(①-イ) 学校内を歩いて、竜巻が起きたことを想定した安全な行動をとることができる。(②-イ) 	<p>○竜巻災害の危険性と身を守る方法(学校外)</p> <ul style="list-style-type: none"> 竜巻による被害や危険性について理解する。(①-ア) 学校外で竜巻が発生した時の自ら身を守る安全な行動の仕方を理解する。(①-イ) 	<p>○気象情報を活用した竜巻予測</p> <ul style="list-style-type: none"> 竜巻発生に関する情報収集の仕方、予兆の特徴から主体的に避難行動をとることができる。(②-ア) 竜巻が起きたときに自分の命は自分で守ろうとする。(③-ア) 	
各 教 科 等 と の 関 連	社 会	/		<ul style="list-style-type: none"> 国土の地形や気候 自然条件に適応した生活 自然災害の防止 情報ネットワークと防災 国や県市の政治と災害復旧の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 国内の地形や気候の特色 自然災害と防災への努力 身近な地域の調査
	理 科	/		<ul style="list-style-type: none"> 天気の様子 天気の変化 流水の働き 土地のつくりと変化 	<ul style="list-style-type: none"> 火山と地震 気象観測と天気 自然の恵みと災害
	道 徳	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さ 自然愛護 	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さ 自然愛護 	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さ 自然愛護 勤労、公共の精神 	<ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さ 自然愛護 社会参画、公共の精神 郷土を愛する態度
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> 通学路における危険な箇所、安全を守っている施設や人々(生活) 			<ul style="list-style-type: none"> 自然災害による傷害の防止(保健体育) 家族の安全を考えた室内環境の整え方(技術・家庭)

※本プログラム内に記載の記号について

【例】(①-ア)…防災対応能力一覧表(P2)の①知識のアを表します。この防災対応能力を育むことをねらいとする学習内容になります。

地震災害	小学校 共通	<p>緊急地震速報を聞いたときの正しい行動</p> <p>○緊急地震速報を聞いたり、強い揺れを感じたりしたときに、どうすれば自分の身を守るかについて考え、主体的に行動することができる。</p>	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	<p>1. 地震の怖さを知り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>緊急地震速報を聞いたときの「正しい行動」について考えよう</p> </div>	<p>○過去に発生した地震（東日本大震災、阪神・淡路大震災等）について、写真等を見せながら思い出させる。</p> <p>○チャイム音を聞かせ緊急地震速報についての基礎的な知識を確認する。</p> <p>○短い時間で身を守る行動をとらなければならないことをおさえる。</p>
展開	<p>2. 学校の様々な場所で緊急地震速報を聞いたときの対応の仕方を話し合う。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おさない ・かけない ・しゃべらない ・もどらない ・ちかづかない <p>3. 緊急地震速報が聞こえたときの対応を実際に行う。【実践訓練】</p>	<p>○教室・廊下・階段等での行動の仕方について考えられるように投げかける。</p> <p>○それぞれの場所で共通する大切な行動についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DROP（姿勢を低く） ・ COVER（頭を守り） ・ HOLD ON（じっとする） <p>○「ダンゴムシになろう」と声をかけるとイメージしやすい。</p> <p>○『お・か・し・も・ち』を確認する。</p> <p>○机の下にもぐれない、上手く行動ができない児童に対しては、教職員から具体的に指示を与える。今後、放送や指示がない場合でも、『だんごむし』の姿勢をとるように指導する。</p>
まとめ	<p>4. 地震発生時に自分の身を守るための自分の行動目標を決める。</p> <p>5. ここまでの学習を振り返るとともに、予告なしで緊急地震速報を聞いたときの対応を再度行い、災害時の行動をまとめる。【実践訓練】</p>	<p>○本時に学習したことを踏まえ、今後、自分の身を守るために、自らどのような判断をして行動するかを考え、自分の行動目標を記入させる。</p> <p>○数名の目標を発表させ、大切なことを確認する。</p> <p>○学校の外でも同じ行動がとれるよう話すとともに、家族でも話し合うように促す。</p>

※小学校を通して、緊急地震速報を聞いて行動する訓練は、繰り返し行う。

※保護者・地域参観で行うと、防災意識を高める上で有効である。

地震 災害	小学校 低学年	地震からの身の守り方（学校内） ○校内で地震が起きたときの安全な行動の仕方について知る。 ○地震が起きたときに自分の命は自分で守ろうとする。	知識
			技能
			態度
	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料	
導入	1. 「地震」についてどんなことを知っているか発表し、学校にいる時に地震が起きたらどのように身を守るかを学習することを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 学校で地震が起きたときの、自分の守り方を知ろう </div>	○最近起きた地震について話題にすることで、地震が身近な災害であることについて関心を高めることができるようにする。	
展開	2. 地震が起きた時の身の守り方について考える。 (1) イラストの中の児童がなぜ机の下に入ったり、グラウンドの中央でしゃがんでいたりするのかを考え、発表する。 (2) 机の下に入る以外で、頭を守る方法はないかを考え、発表する。 3. 地震が起きたことを想定して、机の下に隠れて、帽子やランドセルなどで頭を守る行動を実際に行う。	○教室での身の守り方では以下の点を指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚や窓など物が落ちてきそうな場所から離れること。 ・ 頭を守り机の下などに隠れ、机から体のはみ出さないようにすること。 ・ 机の脚を持って、机が動かないようにすること。 ○廊下やグラウンドでの身の守り方では以下の点を指導する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚や窓など物が落ちてきそうな場所から離れること。 ・ 揺れで転ばないように姿勢を低くすること。 ・ グラウンドでは、可能な限り周囲に何も無い中央部に集まり、揺れがおさまってから行動すること。 ○例えば、クラスを偶数列と奇数列に分け半分ずつ実施させる。体が隠れているか、机の脚を持って動かないようにしているかなど、お互いに正しく身体が守れているかを確認させる。	
まとめ	4. 学校にいる時に地震が起きた場合の行動について、分かったことを確認する。	○身の守り方について、教室やグラウンドなどの場所別に振り返る。 ○どこにいても身体を守りながら揺れがおさまるのを待ち、揺れがおさまってから、教職員や校内放送の指示に従って行動することを伝える。放送や指示がない場合でも、自分の安全を第一に行動できるとよいことも伝える。	

地震 災害	小学校 低学年	学校内の危険箇所 ○学校内を歩いて、地震が起きたことを想定した安全な行動をとることができる。 ○学校内での命を守る行動について、友達と話し合おうとする。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
事前	○ 教室に貼ってある配置図で、地震が起きた際に危険と思われる場所に、シールを貼る。	○授業の数日前から児童に授業の内容を投げかけ、配置図を提示しておくことで、授業への意識を高めておくようにする。
導入	1. 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 学校で地震が起きたときの自分の身の守り方を考えよう </div>	○事前にシールを貼っていた児童を賞賛し、本時の学習への意欲付けを図る。
展開	2. 校内の配置図を見ながら、地震が起こった時に危険な場所実際に行く。その場所の何が危険なのか、どうやって身を守るとよいのかを判断したうえで、実践する。 【コースに入れるとよい危険箇所の例】 ・廊下の窓ガラス ・家庭科室や理科室にある棚やロッカー ・屋外の植木鉢や樹木 ・階段 ・げた箱 ・図書室 ・校庭のサッカーゴール	○子どもたちがシールを貼った場所を効率よく回れるように、事前にコースを考えておく。その際、教師が気付かせたい、子どもたちがシールを貼らなかった場所も含めて、コースを設定するようにする。 ○危険なポイントで子どもたちを集め、この場所で何が危険か、身を守るためにどうしたらよいかを考え話し合い、緊急地震速報がここで鳴ったらどうするかを、実際に行動させてみる。 ○教室を離れての学習であり、楽しい気持ちになりがちである。時折「防災学習は命に関わる学習である」ことを強調することで、真剣に行うことができるようにする。
まとめ	3. 教室に戻り、危険な場所での身の守り方を確認する。	○配置図には、何が危険で、身を守るためにどうしたらよいかを書き込み、教室や廊下に掲示しておくことで、継続して防災への意識を高めることができるようにする。 ○授業の感想や考えたことを何人かの児童に発表させる。特に危険な場所はどこか、どのように身を守るかについても発表させる。

※生活科の学校探検の学習と関連づけて行うことも可能である。

※生活科の町探検の際に、登下校時の危険な箇所を見る視点を入れてもよい。

洪水・土砂災害	小学校 低学年	大雨が降った時の安全な行動の仕方 ○大雨が降った時の危険性について知る。 ○大雨が降ったときの街の変化に気付くことができる。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 雨（水）に関心を持ち、学習のねらいを確認する。 （1）雨がたくさん降ってきたらどうなるのかを考え、発表する。 （2）大雨が降った時の安全な行動の仕方について、学習することを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 大雨が降ったときに気をつけることを考えよう </div>	○大雨が降った時には、通学路や普段遊んでいる場所等、自分と関わりが強い場所を想起させ、課題意識を持たせる。
展開	2. 大雨による被害の写真を見ながら、大雨が降るとあぶないと思う場所を考え、その理由を発表する。 3. 雨が強く降ってきたり、大雨が降り続いたりしている時の行動の仕方について考え、話し合う。	○写真を手がかりにして大雨が降った時の危険箇所等について、より具体的に気付かせていく。 ○大雨が降ると危険なことについて、子どもの発言を生かしながら確認していく。 [大雨が降ると危険なこと] ・川の水かさが増して、堤防から水があふれる。 ・用水路の水かさが増え、マンホールから水があふれたりして、もし落ちたら流されてしまう。 ・水に浸ったところは、全て同じ高さに見えるが、深い場所や用水路等が分からなくなると危険である。 ○大雨の時の安全な行動の仕方のポイントについて、子どもの発言を生かしながらまとめていく。 [大雨の時の安全な行動の仕方] ・川の様子を見に行く等、川にはぜったいに近づかない。 ・外で遊んでいたら、急いで安全に気をつけて家に帰ること。 ・大雨が降り続けている時には、外に出ない。 ・大人の指示に従うこと。
まとめ	4. 雨が強く降ってきたり、大雨が降り続いたりしている時の行動の仕方について分かったことを発表する。	○雨が強く降ってきたり、大雨が降り続いたりしている時にどうしたらよいか、自分にできることを具体的に書かせる。

竜巻 災害	小学校 低学年	竜巻からの身の守り方（学校内） ○学校での竜巻接近時の安全な行動の仕方について知る。 ○学校内を歩いて、竜巻が起きたことを想定した安全な行動をとることができる。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 本時のねらいを確認する。 (1) 竜巻の怖さを知り、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 竜巻が近づいた時の身の守り方を知ろう </div>	○竜巻被害の写真を見せて、竜巻の危険性について確認する。 ○学校に竜巻が接近した際に、危険と思われる場所をあらかじめ教師が確認し、学校の平面図(校舎配置図)等に記入しておく。 ○確認する危険箇所の例 <ul style="list-style-type: none"> ・廊下等の窓ガラス ・音楽室や図書室等にある棚やロッカー ・屋外の植木鉢や樹木 ・下駄箱や廊下等にあるロッカー ・朝礼台やサッカーゴール
展開	2. 校内の危険箇所を調べる。 (1) 竜巻が接近したときに注意することや安全な避難行動を話し合う。 (2) 校内を歩きながら竜巻接近時に危険な場所や安全な場所・行動について考え、平面図に記入する。 3. 教室にてマップを作成し、安全な避難の仕方について話し合う。	○地震の時の身を守る行動を想起させ、共通している身の守り方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・窓ガラス等がある所から離れる ・『姿勢を低く、頭や体（首）を守り、動かない』 ・竜巻から身を守るための安全行動『シェイクアウト（だんごむし）』を知る。 ・ランドセルや防災頭巾の活用についても確認する。 ○教職員や校内放送の指示に従って、落ち着いて行動することを伝える。また、放送や指示がない場合でも『シェイクアウト』の姿勢をとるように指導する。 ○危険な場所で、子どもたちを集め、この場所で何が危険か、身を守るためにどうしたらよいかを一人一人に考えさせたいと話し合うようにする。 ○拡大した校内の平面図を黒板に貼り、歩いたコースを記入し、危険箇所を確認する。 ○安全な避難の仕方を発表し、それを平面図に記入し、全員で確認する。
まとめ	4. 竜巻が接近したときに自分はどんなことに気を付けるのかをまとめ、発表する。	○竜巻が接近したときの安全な避難行動について、大切なことを確認する。

※生活科の学習や地震災害での学習との関連を図ることも可能である。

地震 災害	小学校 中学年	地震から身の守り方（学校外）	知識
		○学校外で地震が起きたときの安全な行動の仕方について理解する。 ○学校外を歩いて、地震が起きたことを想定した安全な行動をとることができる。	技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	<p>1. これまでに学習したことを振り返り、登下校時や放課後・休日など、学校外で地震にあった時、どのような危険があり、どのように身を守るかを学習することを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">学校外で地震が起きたときの、自分の守り方を知ろう</p> </div>	<p>○低学年では、学校内で地震が起きたときにどう身を守るかを学習してきたことを想起させ、本時の学習への意欲付けを図る。</p>
展開	<p>2. 地震発生直後のイラストを見ながら、家の中や町の中で身を守るためにどのような行動が必要かを考え、発表する。</p> <p>3. 学校の周りを実際に歩き、どんな危険があるか、どうやって身を守ればよいかを話し合う。</p>	<p>○大きな地震が起きた場合、自分がどの場所にいるかによって（家、町の中など）危険が異なることを確認する。</p> <p>○イラスト以外にも、次のような場面を例示し、自分がそこにいた場合を想像させ、危険の有無や対応行動について考えさせてもよい。</p> <p>（例）「公園にいる時」 「エレベーターに乗っている時」 「電車に乗っている時」 など</p> <p>○家や町の中での身の守り方では、以下の点を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を低くして頭や体を守ること。 ・倒れそうなものや棚、窓、塀などから離れること。 ・安全な場所で揺れがおさまるまでじっと待つこと。 ・揺れている最中や揺れがおさまってもすぐには動き出さない。 ・近くの大人の指示や誘導にしたがって行動すること。
まとめ	<p>4. 学校以外の場所にいる時の身の守り方について、分かったことを確認する。</p>	<p>○どこにいても、姿勢を低くして頭や体を守ることを確認する。また、地震はいつ起こるか分からないため、一人で留守番をしている時や公園などで遊んでいる時に地震が起きた際、自ら判断して安全に行動できるとよいことを伝える。</p>

※社会科の「安全な生活」の学習と関連付けて実施すると効果的である。

地震 災害	小学校 中学年	地震への備え（家庭でできること） ○家庭での地震の被害を小さくすることや避難に備える のための手立てについて理解する。 ○地震が起きたときに、自分の命は自分で守ろうとする。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 地震が起きた時に困ることはどんなことか発表する。 2. 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 地震に備えて身を守るために、どんな準備をすればよいだろう </div>	○家具の転倒防止器具（L字金具など）や防災袋などを用意しておくこと効果的である。
展開	3. 被害を小さくするための備えについて調べ、まとめる。 (1) 家具の転倒防止器具や引き出しのストッパーなどを見て、どこでどのように使うのか考える。 (2) 地震の際に被害を少なくするためにどのような準備をしておくことよいかを話し合う。 4. 避難の際の備えについて調べ、まとめる。 (1) 防災袋（または非常用持出袋）を見て、何が入っているかを予想する。 (2) 防災袋の中身を知り、それぞれが非常時にどのように使うかを考え話し合う。 (3) この他に必要なものを考え、発表し合う。	○地震で家具や電気製品が倒れたり、照明器具や窓ガラスが割れたりすると、避難の際にも危険度が増すことに気付かせる。 ○災害の規模によっては、比較的早い段階で給水や食料支援が行われることもあるが、緊急時に備えて水や乾パンなどの食料は用意（備蓄）した方がよいことを補足する。 ○防災袋は地震災害で家から離れる（避難する）際に、大切なもの（現金や預金通帳、常備薬等）や、助けが来るまでの間に必要な水と食べ物を持ち出すための備えであることを説明する。 ○避難の際に持ち出す荷物の重量は、一般的に成人男性で15kg、女性や子どもで10kgを目安であることを補足する。
まとめ	5. 家に帰って今日の授業のことを家族に伝え、もしものときのために、「家族の約束」を話し合ってくることを確認する。	○以下のことを家族と話し合っておくことを話す。 <ul style="list-style-type: none"> ・転倒防止器具などの工夫をしているか。 ・家族と離れていた時に避難する場所（自宅、公園、塾など場所別に） ・防災袋（非常用持出袋）の置き場所 ・離ればなれになった時の連絡の取り方、家族の携帯電話の番号を知っておくと連絡が取りやすくなること

小学校
中学年

大雨による災害からの身の守り方

○雨の多い季節や雨の降り方による危険について考え、予測することができる。
○危険を感じ、自ら安全を考えて行動することの大切さに気づき、自分の命を守ろうとする。

知識

技能

態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	<p>1. 大雨が降りやすい季節について知り、学習のねらいを確認する。</p> <p>(1) 栃木市の年間降水量のデータを見て雨の多い季節について知り、めあてを確認する。</p> <p>大雨による災害が起きた時に、どう行動したらよいか考えよう</p>	<p>○栃木市の雨が多く降る季節の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨があること ・台風がたくさんやって来る季節があること ・雷の多い所であり、局地的に大雨やひょう害をもたらす地域であること
展開	<p>2. 道路の冠水、洪水、土砂くずれの写真を見て、大雨が降ったときの災害の危険性について考え、話し合う。</p> <p>3. 大雨時の災害の恐ろしさから、身の守り方について考え、話し合う。</p>	<p>○キャンプ等の外遊びや車に乗っている時等、日常生活場面を想起させ、自分事として考えさせる。</p> <p>○それぞれの災害別に子どもの知っていることを生かしながら具体的な危険性について考えさせる。</p> <p>〔ゲリラ豪雨（集中豪雨）による危険性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短時間での河川の急な増水、氾濫 ・地下街や地下室、アンダーパス等の水没 <p>〔洪水による危険性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋の床下や床上浸水、道路の冠水 ・様々なものが流失する。 ・雨がやんでからも川の水かさが増す可能性があることや自分がいる場所で雨が降っていなくても、上流で豪雨が降った場合、河川が急激に水かさが増すことも確認する。 <p>〔土砂くずれによる災害〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家が土砂で押し流されたり、こわれたり、道がふさがれる。 <p>○大雨の時の安全な行動の仕方のポイントについて、子どもの発言を生かしながらまとめていく。</p> <p>〔大雨時の災害からの身の守り方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川で中州等にいる場合は、直ちに水辺から離れ、高台に避難する。 ・危険なところには近づかない。
まとめ	<p>4. 大雨による災害から身を守る行動について分かったことを発表する。</p>	<p>○危険を感じて、安全な行動ができることが大切であることを確認する。</p>

竜巻災害	小学校 中学年	竜巻災害の危険性と身を守る方法（学校外）を知る ○竜巻による被害や危険性について理解する。 ○学校外で竜巻が発生した時の自ら身を守る安全な行動の仕方を理解する。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 竜巻の特徴を知り、学習のめあてを確認する。 学校外で竜巻が発生したときの、身の守り方を知ろう	○竜巻が接近した時の場所について、家の中や通学路、普段遊んでいる場所等、自分と関わりが強い場所を想起させ、課題意識を持たせる。
展開	2. 竜巻の様子の写真を見て、竜巻の危険性について話し合う。 3. イラストを見ながら、竜巻が接近した時の屋内や屋外の各場所での身を守る行動について話し合う。	○竜巻の周りに飛ばされているものを見て竜巻の危険性について具体的に考える。 ○子どもの知っていることを生かしながら竜巻の危険性について考えさせる。 [竜巻の様子や危険性] ・雲の下で発生する激しい空気の渦巻き ・形は、ろうと状 ・『ゴーッ』という大きな音 ・屋根の瓦や木の枝等が飛ばされる。 ・屋根や自動車を吹き飛ばす威力がある。 ・とても早いスピードで進む。 [竜巻による危険箇所] ・屋内では、ガラス窓の下や近く ・屋外では、木の下や車庫、物置等 ○それぞれの場所によって、身の守り方が異なることに気付かせる。 [屋内での安全な行動] ・雨戸やシャッター、窓やカーテンは閉める。 ・一階の窓のない部屋の中央に移動する。 ・丈夫な机やテーブルの下に入り、下向きに身を小さくして頭や首筋を腕で覆う。 [屋内に避難できないときの行動] ・頑丈な建物にかくれて、下向きに身を小さくして頭や首筋を腕で覆う。 ・物置や車庫、プレハブの中や電柱や太い木、橋や陸橋の下などは、倒壊の危険性が高いので、避難場所としては避ける。 ・身を隠す場所がない時は窪地等に入る。
まとめ	4. 学習して分かったことをまとめ、竜巻接近から身を守るためにどのような行動をとるのか発表する。	○竜巻接近に気付いたら、竜巻を見続けることなく、直ちに身の安全を確保することを確認する。

※竜巻の姿や被害の様子が分かる動画等が活用できると効果的である。

地震 災害	小学校 高学年	<p>地震の発生状況に応じた身の守り方</p> <p>○過去の大地震の被害の特徴を理解する。</p> <p>○地震が発生した季節や時間帯・場所でどのような避難行動をとったらよいかを考え、予測することができる。</p>	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	<p>1. 3つの地震災害「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」「熊本地震」の被災写真から、本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>地震の発生状況による被害や危険の違いと、それに応じた身の守り方について考えよう</p> </div>	<p>○被災している児童がいる場合は、事前に説明するなどし、十分に配慮する。</p>
展開	<p>2. 3つの地震について、発生した季節や時間帯、発生場所等の違いによって、どのような被害や危険性があったかを考え、発表する。</p>	<p>○3つの地震の起こった季節が冬から春であったことから、そこから予想される困難な状況はどんなことかを投げかける。</p> <p>○時刻については、それぞれ異なることから、それぞれの時間帯で予想される困難な状況や危険性はどんなことかを投げかける。</p> <p>○場所については、都市部か農村部か、内陸か海沿いか、交通網の状況はどうかなどを地図帳を使って調べさせるようにする。</p>
まとめ	<p>3. 地震が起こった季節や時間帯、場所でどのように身を守ったらよいかをグループでまとめ、発表する。</p> <p>4. 本時の学習を振り返り、これからの生活に生かしていきたいことを発表する。</p>	<p>○地震はいつ、どこで起こるか分からないことを改めて確認したうえで、主体的に行動するために、季節・時間帯・場所でどのように身を守ったらよいかを考えるように促す。</p> <p>○今までの遠足や宿泊学習、修学旅行の場所や家族旅行の経験を生かすことができるように、グループで協議する形式にする。</p> <p>○全体での発表では、季節・時間帯・場所の特徴と身の守り方が分かるように板書をする。模造紙にまとめて、廊下等に掲示をするのもよい。</p>

※社会「自然災害の防止」の学習や宿泊学習の事前学習と関連付けて実施すると効果的である。

地震 災害	小学校 高学年	避難所までの避難ルートマップ	知識
		○地域の危険箇所はどこか、どのルートが安全かを考えることができる。	技能
		○自分たちで作成した避難ルートマップを校内に掲示することで、地域の安全に役立とうとする。	態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
事前	<p>○ 登下校時や休日に、自宅周辺の避難ルートを探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅近くの避難所 ・ 自宅近くの危険箇所 ・ 自宅から避難所までの避難ルート 	<p>○ 児童の安全を考慮し、可能であればPTAや地域の町内会・自治会等に連絡をし取材への対応や登下校時の付き添い等の協力をお願いする。</p> <p>○ 事前に学校区の白地図を児童に渡す。児童が撮影した写真やメモがあれば、持ってくるように伝える。</p>
導入	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自宅から避難所までの安全な避難ルートマップを作ろう</p> </div>	<p>○ 自宅にいる時に地震が起きた場合、どの避難所に行くのかを児童と確認し、避難所ごとにグループ分けをし、リーダーを決めておく。</p>
展開	<p>2. グループごとに避難所の場所を地図上で確認し、避難ルートマップを作成し、発表する。</p> <p>(1) グループごとに、自宅（住んでいる地区）から最寄りの避難所までのルートを確認する。</p> <p>(2) 避難所までのルートにある調べてきた危険箇所を発表し、地図にまとめる。</p> <p>(3) 最も危険が少ないルートはどこかを話し合い、考えたコースを地図に記入する。</p> <p>3. 他のグループの発表を参考にし、自分のグループの地図に加除訂正する。</p>	<p>○ 避難ルートにおいて、以下の箇所が危険であることを全体に指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 斜面やがけ、川（橋）のある場所 ・ 地震で倒れる可能性のある場所（ブロック塀、お墓、石碑など） ・ 狭い道路、交通量が多い道路 など <p>○ 児童が持参した危険箇所の写真やメモがある場合は、地図に貼り付けるようにする。また、なぜ危険なのかの理由も書くように声かけをする。</p> <p>○ 他のグループの発表を聞く際には、特に自分たちのルートマップにも、同じような危険な場所がないかに着目して聞くように促す。</p> <p>○ 他のグループの発表から参考になったことをグループで話し合うことで、避難ルートマップがさらによいものになるようにする。</p>
まとめ	<p>4. 避難ルートマップを作成して分かったことや考えたことを発表する。</p>	<p>○ 作成した避難ルートマップは、校内に掲示し、全校児童で学区内の危険箇所を確認したり、共有したりすることができるようにする。</p>

※本授業は、総合的な学習の時間で取り扱うと効果的である。

※消防署や消防団の方をゲストティーチャーとして活用するとより効果が高まる。

※土曜授業や授業参観等で実施することで、親子・地域で防災について考える機会としても有効である。

洪水・土砂災害

小学校
高学年

洪水、土砂災害等の危険の予測と身を守る避難の仕方
 ○栃木市で起きた過去の水害について理解する。
 ○栃木市防災ハザードマップをもとに、危険箇所はどこかについて考えることができる。

- 知識
- 技能
- 態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 洪水、土砂災害等の危険性を知り、学習のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 洪水や土砂災害が起きた時、どう避難すればよいか考えよう </div>	○洪水被害等の写真を提示して、私たちの住んでいる街には、どのような危険性があるかを考えさせて課題意識を持たせる。 ○洪水や土砂災害から主体的に身を守るために、どのように危険を予測し、どう避難するかについて学習することを伝える。
展開	2. 防災ハザードマップの見方を理解し、危険箇所を予測する。 (1) 栃木市防災ハザードマップの見方を確認する。 (2) 栃木市防災ハザードマップを見ながら洪水による浸水や土砂災害が起こりやすい場所を考える。 3. 避難ルートマップを作成することで、洪水や土砂災害が起きた時の安全な避難の仕方について考える。	○栃木市防災ハザードマップを準備しておく。 ○栃木市防災ハザードマップの見方 ・地域での洪水災害や土砂災害が起きやすい危険箇所が示されている。 ・地域の避難場所が記載されている。 ○ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こり得ることも確認しながら考えさせる。 ○洪水が起きた時に、どの道を通って家や学校に行けばよいか具体的に地図上に示して考えさせる。 ○近くの大人の指示や誘導に従って行動することも確認させる。
まとめ	4. 防災ハザードマップを使用して、身を守る行動について分かったことを発表する。	○家族との連絡先を確認しておく等、学習したことを家族でも話し合うよう促す。

※地域の方や消防団の方をゲストティーチャーとして活用すると効果的である。

※土曜授業や授業参観等で、親子・地域で防災について考えることも有効である。


竜巻 災害	小学校 高学年	気象情報を活用した竜巻予測 ○竜巻発生に関する情報収集の仕方、予兆の特徴から主体的に避難行動をとることができる。 ○竜巻が起きたときに自分の命は自分で守ろうとする。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 竜巻の危険性を知り、学習のめあてを確認する。 竜巻に備えるためには、どのように気象情報を活用したらよいか考えよう	○竜巻発生を予測するためには、何が活用できるか考えさせることで、課題意識を持たせる。
展開	2. 竜巻発生を予測するための情報収集の方法について話し合う。 3. 竜巻の前ぶれについて、調べたことを発表する。 4. 竜巻接近から自分の身を守るための行動について考える。	○竜巻の発生に気付くためには、竜巻が発生する予兆（気象現象）を知っておくことが大切であることを確認する。 ○雨量などの情報収集や各種の警報に関して、テレビやラジオ、ホームページ（宇都宮気象台や気象庁等）から情報が入手できることを確認させ、竜巻についての情報を収集させる。 ○竜巻予兆のキーワードを確認する。 ・大気の状態が不安定 ・竜巻などの激しい突風に注意 ・天気急変に注意 <竜巻発生の前触れ> ・低く黒い雲（積乱雲）が接近する。 ・雷の光（雷光）が見えたり、音（雷鳴）が聞こえたりする。 ・急に冷たい風が吹き出す。 ・急に雨やひょうが降る。 ・ろうと状の雲とゴーという大きな音 ・いろいろなものが舞い上がる様子 ○天気予報や気象情報を入手し、気象の変化を理解して主体的に行動する習慣を身に付けさせる。 ○竜巻接近の兆しがある時の安全な行動 ・気象情報に注意すること ・前ぶれに注意すること ・身を守る安全行動が素早くできること ・危険な場所を避けて早めに避難すること
まとめ	5. 学習して分かったことをまとめ、発表する。	○自分の身を守るために、様々な情報をもとに、危険を事前に予測し、正しく判断して行動することの重要性を確認する。

※竜巻発生に対する避難訓練の事前指導として位置づけ実施すると効果的である。

※パソコン室を利用して気象庁や宇都宮地方気象台のホームページを活用すると効果的である。

地震 災害	中学校	緊急地震速報を聞いたときの正しい行動 ○緊急地震速報を聞いたり、強い揺れを感じたりしたときに、どうすれば自分の身を守れるかについて考え、主体的に行動することができる。	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	1. 栃木市防災ハザードマップをもとに、自分の地域で想定される災害を確認する。 ○地震災害 ○洪水・土砂災害 ○竜巻 2. 地震の怖さを知り、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 緊急地震速報を聞いたときの「正しい行動」について考えよう </div>	○栃木市防災ハザードマップを提示することで、学校付近でも様々な災害が想定されていることを理解できるようにする。 ○過去に発生した地震（東日本大震災、阪神・淡路大震災等）について、写真等を見せながら思い出す。 ○チャイム音を聞かせ緊急地震速報についての基礎的な知識を確認する。 ○短い時間で身を守る行動をとらなければならないことをおさえる。
展開	3. 地震による物の動き方を知り、学校で緊急地震速報を聞いたときの対応の仕方を話し合う。 4. 地震が起きたときに、その場で注意することや安全な場所への移動のルールをまとめる。  5. 緊急地震速報が聞こえたときの対応を実際に行う。【実践訓練】	○教室・廊下・階段など、具体的な校内の場所を提示して、行動の仕方について考えることができるようにする。 ○それぞれの場所で共通する大切な行動についてまとめる。 ・ DROP （姿勢を低く） ・ COVER （頭を守り） ・ HOLD ON （じっとする） ○小学校の「だんごむし」を想起させるようにする。 ○中学校においても『お・か・し・も・ち』を確認する。 ・おさない・かけない・しゃべらない ・もどらない・ちかづかない ○机の下にもぐれない、上手く行動ができない生徒に対しては、教職員から具体的に指示を与える。
まとめ	6. ここまでの学習を振り返るとともに、予告なしで緊急地震速報を聞いたときの対応を再度行い、災害時の行動についてまとめる。 【実践訓練】	○災害はいつ起こるか分からないことを改めて確認するとともに、学校外ではどのように行動すべきかを考えるように促す。 ○今後の防災学習と関連させるために、災害時に自分が利用する避難所の位置・ルート、家族の携帯電話番号なども確認しておくように促す。

※ 各学年の年度初めに実施するとよい。学年に応じて、地震以外の災害についても小学校の年間指導計画を参考にして、避難方法等を確認する。

避難所運営	中学校	<p>災害が起こった時の避難所での行動</p> <p>○避難所での様々な状況で自分たちにできることを考えることができる。</p> <p>○避難所で自分自身だけではなく、地域の方の生命を進んで守ろうとする。</p>	知識
			技能
			態度

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
導入	<p>1. 予告なしで緊急地震速報を聞いたときの対応を行い、被災後の行動から、本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>災害が起こった時の避難所での行動について考えよう</p> </div>	<p>○被災後、(1)自分の身の安全を確保する(2)避難所に向かう(3)避難所での生活があることを確認することで、本時の学習内容に関心を高めることができるようにする。</p>
展開	<p>2. 避難所の写真から、避難所の様子を話し合う。</p> <p>3. 避難所において自分たちができることを考える。</p> <p>(1)避難者が困ることや不便を感じることをグループごとに話し合い、表に書き込む。</p> <p>(2)(1)に対する解決方法について話し合い、表に書き込む。</p> <p>(3)(2)解決方法をもとに、自分たちにできることを話し合い、表に書き込む。</p> <p>(4)表に書いたことをグループ毎に発表し、全体で共有する。</p>	<p>○避難所の写真を見て、避難所には地域の様々な人たちが集まってくることを確認することで、具体的に考えることができるようにする。</p> <p>○避難所の写真資料から、避難所の様子や想定される混乱や困難な状況をクラス全体で発表し合ってから、グループでの話し合いに入るようにする。</p> <p>○解決方法を考える際には「自分一人で解決できること」「自分たちで解決できること」「消防や市役所に解決を頼むこと」と自助・共助・公助の視点で考えるように助言する。</p> <p>○中学生としては、特に「共助」の視点を考える活動を中心にするすることで、社会貢献に関する態度を養うことができるようにする。</p> <p>○クラス全体の共有では、様々な立場の人のことを考えた意見を賞賛することで、人権感覚を養うことができるようにする。</p>
まとめ	<p>4. 避難所での行動で大切なことをワークシートに記入する。</p>	<p>○避難所での行動に正解はなく、他者に対して何ができるかを考え、それを実行するという意識や姿勢が大事であることを確認する。</p> <p>○避難所生活を経験した教職員は、その時の体験談（知人や友人の体験でもよい）を話すとよい。</p>

※避難所生活を体験した方をゲストティーチャーとして活用するとより効果が高まる。



発行日 平成29年3月

発行者 栃木市教育委員会